

初めての沢登り 第1回～第2回

◎第2回日程 8月27日 ◎易しい沢登りシリーズ 第2回「丹沢 葛葉川本谷」
◎メンバー Oh (L)、Kon (SL)、Kwch
◎報告 Kwch

知らなかった、こんな面白いものが有ったんだ。

先頭のFjさんがタッタッタと登っていく。続いては自分の番、タッタッタとは行かず恐る恐る少しずつ進む。地下足袋と「わらじ」のお陰で足元は確かだ。地下足袋も「わらじ」も生まれて初めて履いた。むかし子供の頃履いた「ぞうり」は鼻緒があるだけで「わらじ」の様に足に括りつけるような紐は無かったようだ。大工センターで買った「指先なし手袋」も結構役立つ。続いて登って来るのはMachiさん、なかなか力感あふれる登りっぷりである。

足裏全部を岩にピッタリと着けると意外と滑らないものだ。ただ足首の柔軟性に欠ける所為か足を持ち上げる時、踵だけが上がって途端につるっと滑ってザイルのお世話になる。上ではFJさんが確保してくれている、最後尾のOhさんからは時々アドバイスがある。右足はもうちょっと上、左はどこそこに、2人のインストラクターのお陰で2人の生徒は安心だ。

もともと山歩きを始めたのが還暦直前になってからだから、沢登りに縁が無かったのも仕方が無い。それにしても後期高齢者になった今まで15年間は山歩きをしているのに、一度も沢に縁が無かったのは残念の一言。尾根歩きの途中どこから現れたのか、ちょっと変わった出で立ちの一回と会う事があった。それが沢登りの人達だったのだ。

この歳だから、これからそれほど多く沢登りは出来ないだろうが機会があればもっとやってみよう。それにしても沢が終わってから尾根に出るまでの登り、「詰め上がり」と言うのだそうです。シンドイものですね（ここまでは第1回「モミソ沢」の段）。

2回目の葛葉川本谷は雨に祟られた。台風と台風の合間、何とか保つかと思われたが、入渓点の葛葉の泉に着いてびっくり、辺りは台風の影響で大きな岩や流木で荒れ放題。テレビで見る「集中豪雨の爪あと」そのもの。リーダーの判断で遡行は中止、代わってF1の上部で確保、支点の作り方、懸垂下降などの練習をやって頂いた。

懸垂下降では「絶対この手を離すな」と、言われた右手でザイルをしっかりと握り兔にも角にも15m弱の斜面を降り切った。確保の練習もした。実験台のKonインストラクターが登って来るのを私が確保した。心配顔のKonさん、ザイルに全体重を預けるのは控えておられたようだ。立木に支点をとる時は、枯れ木は太くてもダメ、生木は細くても結構抜けられないものだと言われる。十分枯れ木年齢の自分には一寸応える話ではないか。



（土石流や流木で埋まった入渓点「葛葉の泉」広場。
橋桁も土石流と流木で埋まっていた）

練習のあと沢を下る。今習ったばかりの懸垂下降を実践する。コースは真っすぐに数メートル下降の後僅かに右に曲がっている。後ろ向き姿勢の自分から見たら左にカーブしている。右側は小さな滝壺だ。左側の足場が一寸滑りそう、思わずザイルにしがみつくと、これがいけなかった。ザイルに体重を掛けたものだから、ザイルは鉛直方向に振られて滝壺方向に、足は左側の岩の上、上体だけが滝壺方向に振られてジャボン。幸い滝壺が浅かったのと、Konさんがザイルを引っ張ってくれたお陰で大事には至らなかった。

色々な事を経験した楽しい沢登りであった。秦野駅について早い打ち上げを行う頃には本格的な雨、遡行中止して良かった。あのまま強行していたら今ごろは鉄砲水にやられていたかも。2回の沢登り、インストラクターの皆さん、有難うございました。3回目も頑張りますのでよろしくお願い致します。